

作間 雄二（さくま・ゆうじ）

1、プロフィール

作間は東京新橋に生まれ、昭和 30 年劇団文化座へ入団し舞台を踏んだ。34 年演出家を志し退団、弘前に移住した。その後、戯曲、脚色、演出、創作など文化活動一筋に生きた。

<生没>

1929(昭和4)年 12 月8日 ~ 1975(昭和 50)年8月 23 日

<代表作>

『西津軽郡車力村』『作間雄二戯曲集』

<青森との関わり>

演劇で活躍のさ中、弘前市に昭和 34 年に移住、以後は亡くなるまで津軽を題材として創作活動に没頭した。

2、作家解説

昭和4年 12 月8日、作間雄二は東京芝新橋に父亮、母津多子の次男として生まれた。兄一雄がいる。桜川小学校から正則中学校に入学したが、太平洋戦争中、千葉県市川市に疎開し少年時代を過ごした。この頃友人と劇団をつくり、演劇に興味をもつ。

22 年千葉県市川学院卒業と同時に、明治学院専門学校社会学科に入学。その後中退し、市川市八幡小学校の代用教員となった。30 年 25 歳の時、劇団文化座へ入り、5月初舞台を踏んだ。演出家佐佐木隆に師事する。34 年演技部より演出部に移籍し、演出家を志した。同年5月「炎の人」巡演のために東北各地をまわり、多くの演劇活動家に出会う。10 月三好十郎作「冒した者」の舞台監督を最後に文化座を退団し、12 月妻の郷里弘前市に移住した。彼は「弘前文学」の同人となり、小説「謀叛人始末」等の作品を発表した。

38年3月20日弘前演劇研究会(後に劇団弘演)を設立し、その後は、戯曲、演出など演劇活動を精力的にすすめた。39年戯曲「津軽ばか塗り」が「文化評論」新人賞を受賞した。40年「浅草象潟あたり」が「オール読物」戯曲の部佳作に入選した。42年「津軽謀叛人始末」が日本共産党創立45周年記念文芸作品戯曲部門で佳作に入選した。この頃松田解子原作を「おりん口伝」「続おりん口伝」に脚色した。46年戯曲「西津軽郡車力村」を脱稿する。この頃より、過労のため入院を繰り返している。

50年吐血し衰弱した身体で戯曲「八戸無産者診療所」を脱稿した。

同年8月23日肝硬変のため弘前市の健生病院で亡くなった。45歳。10月23日、「八戸無産者診療所」を劇団弘演が追悼公演した。

3、資料紹介

○『作間雄二戯曲集』

図書

1978(昭和53)年8月1日

190mm×143mm

「作間雄二戯曲集」刊行委員会の手により刊行される。創作「津軽ばか塗り」「浅草象潟あたり」「津軽謀叛人始末」「喪の季節」「西津軽郡車力村」「雪夜」「八戸無産者診療所」と、脚色「おりん口伝」「続おりん口伝」「秘密」を収める。